

あったかみのあるまち「ちとせ」を目指して

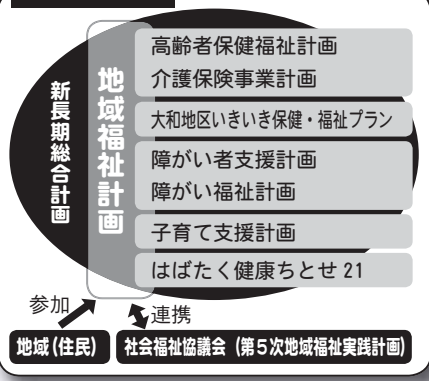
第2期千歳市地域福祉計画

地域福祉ってなに？

住みなれた地域で、健康で安心して生活を送りたいとだれもが考えるのではないだろうか。しかし、いつも体調が良いとは限りません。年をとれば体が思うように動かなくなり、一人暮らしで暮らすようになるかも知れません。そんなとき地域で暮らす方がお互いに支えあうことができたなら、もっと暮らしやすくなると思いませんか。

「地域福祉」は、高齢者や障がいのある方といった区分ではなく、地域という場所に注目して、市民の皆さんが支え合い助け合いながら福祉を進めることです。「地域福祉計画」は、地域福祉の具体的な取組内容を表すものです。

計画の位置づけ



ほかの保健福祉計画との関係

地域福祉計画は、左の上の図のとおり、市の福祉部門の基本となる計画で各個別計画を束ねる位置にあります。総合的なまちづくりの指針となる「新長期総合計画」と各個別計画をつなぐ役割をもっています。

アンケート調査から

計画づくりの資料とするため、平成21年に市民アンケート調査を行いました。

【近所づきあい】

「あいさつをする程度」「ほとんど付き合いはない」は約60%と平成15年に行った同じ調査のときより増加し、「相談・助け合う」は減少しています。

【近所どうしの手助け】

「回覧板くばり」「声かけ・あいさつ」「道路や空き地の清掃」などたくさん項目で、自分が行うことが可能な手助けの割合が、自分が受けた手助けの割合を上回っています。近所づきあいが希薄になる傾向の中、地域で支え合うことが十分可能であると考えられます。

安心して子どもを生み育てるために

千歳市子育て支援計画(後期計画)

進む少子化

社会問題のひとつとなつていく「少子化」。日本の人口を保つためには、一人の女性が一生の間に生む子どもの平均数(合計特殊出生率)は2.08が必要といわれます。平成20年度の全国平均は1.37、北海道平均は1.20となつており、全道一若いまちといわれる千歳でさえも1.51と低い状況です。

この少子化の背景は、核家族化や女性の社会進出の増加をはじめ、経済情勢の変動など子どもを取り巻く環境が大きく変化していることがあげられます。子育て中の親や家族の負担感が増しているため、社会全体で子育てを支援する必要があります。

千歳の子育て事情

- 国勢調査や住民基本台帳などの統計数値をみると、千歳の子育て環境はつぎのような特色があります。
- 若い世代の子育て家庭が多い
- 親族との同居が少なく、保護者だけの子育て家庭が多い
- 専業主婦の子育て家庭が多い
- 転勤世帯が多く、千歳に住みながらいない子育て家庭が多い

この状況は、前期計画をつつた5年前の状況と変わっておらず、現在も「子育てが孤立しやすい環境にある」といえます。今回の計画づくりのために行つたアンケート調査では、5年前より働く母親の割合は増えています。また、今後働くことを希望する専業主婦の母親の割合も増えています。

このことから、仕事と子育てを両立できるようさまざまな分野での子育て支援が必要となつていきます。

前期計画を踏まえた後期計画

市は、子育て支援計画の前期計画にもとづいて、子育て世帯を中心にさまざまな支援事業に取り組んできました。

成果としては「子育て総合支援センター」の開設や地域子育てサロンの整備、学童クラブ・児童館の増設などがあげられます。今回の計画は、これまでの実績やアンケート調査結果などを踏まえて、新たに後期計画としてつくつたものです。



子育て総合支援センター(ちとせこセンター)